

ピアネット monthly Dec. 2016



★ ピアネットマンスリーの発行について

ピアネットマンスリーは各団体の活動状況に合わせて定期的に発行していきます。《ピアネット運営事務局》

ピアネット

「第2回ピアネットシンポジウム」を開催しました！



12月3日(土)、市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート5階 G502 教室にて、「法政大学第2回ピアネットシンポジウム」を開催しました。本学学生、教職員のほか、他大学(名古屋大学、フェリス学院大学、明治大学、横浜国立大学、立命館大学)の学生、教職員も参加され、76名の来場者がありました。法政大学では、2012年に「ピアネット」を設立し、学生スタッフを中心としたピアサポート活動や学生企画プログラムの充実と連携を図ってきました。また、「ピアネット」では、学生スタッフに対して毎年2回の共通研修会を開催し、学生スタッフの成長を図るためのピアネットコンペティションを作成するなど、学生スタッフ間はもちろん、学生スタッフを抱える部局の教職員間の連携、情報共有を行っています。2016年度第2回ピアネットシンポジウムは、第一部では立命館大学の沖裕貴先生(教育開発推進機構教授)の基調講演、第二部ではピアネット各団体の学生スタッフ活動の報告と意見交換をパネルディスカッション形式で行い、本学の「ピアネット」活動について、多くの方のご意見・ご感想をいただく機会としました。第一部の基調講演は、沖先生から「法政大学のピアサポートに期待すること」をテーマに講演をしていただきました。本学のピアネット活動の原点でもある学生スタッフ活動の3つのメリット「支援される側の学生の喜びと成長」「支援する側の学生の喜びと成長」「教職員の喜びと業務の改善」を国内外での豊富なご経験、事例を織り交ぜながらご説明いただきました。また、他大学では学生スタッフを抱える部局間の連携がなかなか進まない中、本学のピアネットは、非常にうまくいっている事例として高い評価をいただきました。第二部のパネルディスカッションでは、学生センター「KYOPRO」、ボランティアセンター「VSP」「チームオレンジ」、グローバル教育センター「グローバルデイ実行委員」、FD推進センター「学生FDスタッフ」、学習ステーション「学生スタッフ」の各団体によるプレゼンテーションと代表者による意見交換・質疑応答を行いました。目標に向かって組織をまとめ上げる難しさや、ピアサポート活動を続けることによって得られる喜び・成長等について、活発な意見交換をすることができました。閉会挨拶に立った本学教育支援本部担当の佐藤常務理事からは、「みなさんが今日示してくれたことは、我々にはこんなことができる。学ぶことに境界はない。そしてそれは楽しくなければならぬ。」との言葉が寄せられ、盛会のうちにシンポジウムは終了しました。また、シンポジウム終了後には、富士見ゲートカフェテリア「つどひ」にて懇親会を開催し、学生スタッフ同士や教職員との交流を行いました。来場者のアンケートからは、「他大学や海外の活動例を知ることができて勉強になった。」「各団体の発表や質疑応答を通して自分たちの団体の課題も見つかった。」「ピアネットという枠組みの中、団体が存在しシンポジウムを開催できることが羨ましいと感じた。参考にできる点が多くあった。」等の声が寄せられました。参加した学生スタッフからは、「他のピアネット団体の企画や広報のやり方などを自分たちの活動にも生かしていきたいと思った。」「他の団体のことをあまり知らなかったので発表を聞いて良かった。また、他大学の学生と交流ができて良かった。」等の声が寄せられました。今後も各々のユニットにおける活動はもちろんのこと、ピアネット全体としての活動も積極的に展開していきたいと考えております。



基調講演をされる沖裕貴教授



パネルディスカッションでは苦労話ややり方について率直な意見交換がありました。



閉会挨拶をされる佐藤常務理事



参加した学生スタッフと教職員のみなさん

KYOPRO

「意外と身近? 日常に潜む妖怪たち」を実施しました!

11月15日(火)、市ヶ谷キャンパスにて学生センター・課外教養プログラム「意外と身近? 日常に潜む妖怪たち」を実施いたしました。講師は法政大学理工学部教授で、著書「江戸東京怪談文化の成立と変遷」で日本古典文学会賞を受賞した横山泰子先生に依頼しました。当プログラムは、妖怪をきっかけにして日本の文化や歴史を学び、他者に発信できるようにすることを目的としました。近年グローバル化に伴い、異文化だけでなく、自国の文化理解が必要とされています。そこで今回は、古来よりこの国の風土や人々の生活に深く関わってきた妖怪を通して文化を学べるようにしました。企画内容の前半は講義、後半は様々な体験しました。まず講義では、妖怪から日本文化を学ぶ意義や季節(11月)に関した話、法政大学及び各キャンパス付近の怪談について学びました。毎日通っている大学の意外と知らない怪談に参加者も熱心に耳を傾けていました。次に、市ヶ谷・多摩キャンパスにも伝わる妖怪変化を学び、スタジオジブリ映画「平成狸合戦ぽんぽこ」を鑑賞しました。伝承に基づく数々の妖怪たちがアニメーションとして動く様子に圧倒されました。その後、国際日本文化研究センターの「怪異・妖怪伝承データベース」を使って参加者の地元の怪異・妖怪を検索し、最後に江戸時代に実際に親しまれていた妖怪カルタを体験しました。少数グループに分かれて行ったので、グループ内で交流しながら当時の娯楽を楽しむ姿が印象的でした。

参加者からは、「企画名通り妖怪が意外と身近な存在だと分かった」「自分の知っているアニメーションからの学びに気づいた」「地元や大学の怪談を知り、地域性に興味を持った」などの声がありました。この企画を通して、古来より脈々と言い伝えられてきた妖怪文化が今もなお、私たちの身の回りに息づいていることを感じていただけたら幸いです。



KYOPRO スタッフによる講師紹介



データベースを使って地元の怪異・妖怪を検索



グループに分かれて妖怪カルタの体験



妖怪カルタを持って集合写真

ボランティアセンター

「～法政大学×東洋大学～富士山清掃ボランティアツアー」を実施しました！

10月23日(日)、ボランティアセンターでは、東洋大学と合同で「NPO法人・富士山クラブ」のご指導のもと、学生69名(法政36名、東洋33名)、教職員3名で「～法政大学×東洋大学～富士山清掃ボランティアツアー」を実施しました。

バスの中では、ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)を中心とした企画スタッフがレクリエーションを行うことによって、参加者間の交流が深まりました。今回から、富士の自然の美しさを参加学生に知ってもらうため、約2時間、「NPO法人・富士山クラブ」指導のもとトレッキングを実施し、樹海に生息している動植物の生態系を学ぶことが出来ました。トレッキングの後に昼食をとり、清掃活動の作業現場に移動しました。

作業現場は数か所あり、車のバッテリー、廃屋を解体した際のがれきや、木材、ガラス等が山のように積まれていましたが、法政大学と東洋大学の学生が協力することにより大量のごみを廃棄することが出来ました。活動後は各班にわかれ、情報共有、振り返りを行い、清掃活動を広めるアイデアを発表するなど、充実した活動となりました。今後も法政大学と東洋大学は協力して富士山の清掃活動を継続的に行っていきます。



樹海に生息している植物について説明を受けている学生



清掃作業の様子



全体写真

キャリアセンター 学生サポーター

「Re:ゼロから始める就活対策～あなたの就活“第一歩目”をお手伝いします」を実施しました！

11月14日(月)、17日(木)にキャリアセンターで「Re:ゼロから始める就活対策～あなたの就活“第一歩目”をお手伝いします」を実施しました。

後輩たちの就職活動を支援する「学生サポーター」主催のイベントで、キャリアセンターの紹介、就活体験談の紹介、座談会を行いました。

今後も12月・1月に実施する支援行事に向け、準備に余念がありません！



イベントの様子



学生サポーターの皆さん

FD推進センター 学生FDスタッフ

2016年度「学生が選ぶベストティーチャー賞」を実施しました！

「学生が選ぶベストティーチャー賞」は学生による学生・教員のための「理想的な授業をしている先生を選んで表彰する」という目的で2014年度より実施しています。2016年度は10月24日(月)～11月18日(金)の期間中に3キャンパスで投票を行いました。



市ヶ谷

えこびんによる周知キャンペーンの様子



多摩



小金井

今年度受賞者の発表は、12月15日(木)を予定しており、表彰式・祝賀会は12月24日(土)に開催します。



学習ステーション

学生プログラムを実施しました！

学習ステーション(富士見坂校舎2階)にて学生プログラムを実施しました。

11月のプログラムでは、ディスカッションやモノづくり、英語のフレーズを学ぶプログラムを行いました。

引き続き12月22日まで(月曜日～金曜日)行う予定です。



プログラム実施の様子



学生が制作した作品



◆編集後記◆

第2回ピアネットシンポジウムが無事終了しました。学生は、他の団体の学生スタッフとの交流により、自らの活動だけでは得られなかった気づきや発見があったようです。今後もより一層連携を図り、学生のピア・サポート活動や学生スタッフが参加する各種プログラムが充実されることが期待されます。

ピアネットマンスリーについてのご感想をお待ちしております。